



竹内 功市長

なかしままこと
中島諒人さん

劇場のあるまち・鳥取市

6月23日(水) 鹿野町にある「鳥の劇場」で、主宰の中島諒人さんと竹内市長の対談が行われました。中島さんは、平成21年度芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。地域と劇場、演劇の関わりが、「日本の芸術振興に新たな流れを生み出す期待を抱かせた」と讃えられました。

受賞の経緯や、9月に開催する「鳥の演劇祭3」に向けての抱負や地元鳥取への想いを語っていただきました。

問い合わせ先

市役所本庁舎文化芸術推進課 ☎ 0857・20・3226

一般市民に開かれた劇場が 地域振興の拠点に

芸術選奨新人賞の受賞

竹内 中島さんは、このたび平成21年度の芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞されました。誠におめでとうございます。受賞された経緯や今のお気持ちなどをお話いただけますか。

中島 鳥取市の鹿野町において「鳥の劇場」を創り、それを一般市民の方に向けて開いたものにしていく、そして、地域振興の一つの拠点にしていこうということを微力ながら少しずつやってきました。そういう劇場と地域との関係が評価されたのではないかと思っています。

竹内 平成18年に「鳥の劇場」をこの

地で始めたいというお申し出があった時に、鳥取市はちょうど使われなくなっていた旧鹿野幼稚園、旧鹿野小学校の一部を使っていた。それが大きな支援となっていました。それが大きな種が芽を吹いて、今だんだんと大きくなっている姿のように思います。

中島 東京だと、劇場というのはやはりどうしても演劇好きの人のためのだけの場所なのです。この場合は、みなさんがトータルに私たちの活動を応援してくださり、理想に向かって少しずつ進めさせてもらっています。

竹内 国際的な演劇祭もこれまでずっと展開してこられました。今年、鳥の演劇祭3ということで3回目になるのです。どのような計画なのでしょうか。



「しかの心」で行われた芸術選奨新人賞受賞の祝賀会には大勢の市民や関係者が集まりました



中島諒人：演出家

鳥取市出身。1990年東京大学法学部卒業。大学在学中より演劇活動を開始、卒業後東京を拠点に劇団を主宰。2003年利賀演出家コンクールで最優秀演出家賞受賞。2004年から1年半、静岡県舞台芸術センターに所属。2006年より鳥取に劇団の拠点を移し、「鳥の劇場」をスタート。

海外の舞台作品を招き

鳥取の自然、文化、伝統を

鳥の演劇祭3

中島 9月3日から26日まで演劇を中心にいろんな催しをします。今年はイスと韓国、インドネシアからカンパニーを招きます。それから、子どもたちのための音楽、工作、詩などのワークショップも行います。

また、「鳥取体験プログラム」というのをやっており、今年は鳥取の民芸運動や地酒、鳥取砂丘、夏泊の海女さんなどを紹介したいと考えています。それから、鳥の劇場のスタッフがセレクトした鳥取のいいもの、民芸品やお菓子、お酒などを劇場内特設のお店で販売する予定です。

竹内 鹿野の町は元々亀井茲矩公の城下町であり、町並みも整備されてきています。そういう中で新しくできた鹿野往来交流館に「童里夢」(ドリーム)という名前を付けました。この交流館のグランドオープンを9月11日に行います。鳥の演劇祭の開催期間と重なりますが、活用していただけるような計画になっているのでしょうか。

中島 鳥の演劇祭の会場の一つとして使わせてもらう予定です。それから、演劇祭以外でも定期的に

ミニコンサートなどで使わせていただきたいと思っています。

地方都市だからこそ

必要な創造性

本市の文化芸術の振興

竹内 昨年4月に鳥取市は文化芸術振興条例を作りました。また、鳥取市民会館の耐震改修や内装のリニューアルも行いました。一層、文化面で飛躍したいと思っておりますけれども、中島さんは鳥取市全体の文化の振興について、どのように思っておられますか。

中島 田舎はどうしても創造性、クリエイティブというところが少し弱いという感じがありますが、田舎ほどクリエイティブな創造力が今は必要な時代だと思っております。今までは基本的に東京の下請けだったのですが、そうではなくて、自分たちで作った良いものを世界中に売ろうということを考えて時に、やはり創造性というものが、市民のみならずの生活の中にも、ものすごく必要なことなのではないかと思っております。

竹内 地方都市の鳥取市こそ、まさにクリエイティブなものが必要だという主張ですね。私も東京で生活をし、大都会

鳥の演劇祭3
 期間 9月3日(金)～26日(日)
 主会場 鳥の劇場 鹿野町鹿野1812-1)
 8月2日(月)から
 チケット予約の受付を開始します。
 [お問い合わせ]
 電話：0857-84-3612
 電子メール：engekisai@birdtheatre.org
 ウェブ：www.birdtheatre.org/engekisai/

この対談の内容は8月3～7日放送のいなびりネットでも紹介します。

というのは急がされて動かざるを得ないような経験があります。ところが、地方都市で生活をしていると、ゆったりとして強制されることが少なかつたりします。しかし、それだけで終わってしまうのではなくて、この恵まれた環境の中で、じっくり考えてクリエイティブなもの創造していけば、本当に良いものができるだろうし世界へも発信できる、これは文化面だけでなく、産業面でも言えるように思います。

今後鳥の劇場の活動が大きな輪を広げていくよう、鳥取市もしっかりお手伝いをさせていただこうと思っております。引き続き精進を重ね、洗練されたものをきちんと作り出していくという活動を期待しています。本日はありがとうございました。